

令和5年度第11回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日 時：令和6年3月16日（土） 10時～12時

テーマ：身近な春の植物を観察しよう

場 所：霞ヶ浦環境科学センター野外施設

案 内：小幡 和男（茨城県霞ヶ浦環境科学センター会計年度任用職員）

内 容：霞ヶ浦環境科学センター野外施設で、早春の植物のようすを観察します。本格的な春の到来はまだですが、足元に目をやると、小さくてかわいい春の植物たちがきれいな花を咲かせています。

また、樹木では、寒い冬に咲いていたツバキとサザンカの花がまだ残っています。よく似た花の違いを見つけます。コブシの花も咲きだしました。

この観察会では、身近な植物の花や葉などをルーペを使って詳しく観察し、ふだん何気なく見過ごしている植物の形と暮らしを再発見します。

参加者：26名（大人20名、子ども6名）

担当職員：3名

パートナー：8名

結 果：センター野外施設で、春の植物の観察を行いました。天候に恵まれ、暖かい日差しの下、快適に観察を行うことができました。

観察では、全員ルーペを使って、植物の花や葉について、肉眼ではなかなか見えない細かいところを観察し、その植物の特徴や似たものどうしの植物の共通点や違うところを調べました。

2時間の観察時間でしたが、あっという間に過ぎた感じで、大人も子どもも熱心に観察することができたと思います。

観察した主な植物と観察の内容は以下のとおりです。

○オオイヌノフグリの観察

オオイヌノフグリの花びらは4枚、つけ根でつながっている。4枚の花びらは同じ形ではなく、1枚が小さくて色が白っぽい。この花びらは必ず下向きになっている。雄しべは2本で、花の左右について湾曲している。この形がクワガタムシの角（あご）に似ているので、日本で見られるこのなかまにはクワガタソウの名前がついている。青い花びらにはさらに濃い色の筋が放射状についている。これは、花の中心に蜜があることを虫に教える役目をしている。そして、湾曲した雄しべは、虫が花にとまると花粉を虫の体につけて運んでもらえるしくみになっている。

オオイヌノフグリの花実は長い柄をもっているが、同じなかまのタチイヌノフグりは柄が短いので花実が上を向いて立っているように見える。

○ホトケノザとヒメオドリコソウの観察

ホトケノザとヒメオドリコソウはシソ科の植物でよく似ている。花は口を大きく開いたような形で、上と下の花びらを上唇（じょうしん）と下唇（かしん）という。花はホトケノザの方がやや大きく上方向に立ち上がっている。葉の形も似ているが、よく見るとヒメオドリコソウの葉は先端がややとがり、茎の一番上の方の葉がやや赤みを帯びている。

ホトケノザの名前の由来は、茎に向かい合わせについている2枚の葉の1組が、仏像が座っている蓮華に似ているので、この名がついた。春の七草のホトケノザはキク科の別の植物なので間違っって食べたりしてはいけない。

茎をさわってみると、両種とも四角いことがわかる。また、葉が向い合わせ（対生）についていることも共通の特徴である。

○コハコベの観察

コハコベの花びらは一見10枚に見えるが、1枚の花びらが深く切れ込んでいるので、正解は5枚、雄しべは3、4本、雌しべの先端の毛のようなつくり（柱頭）が3本になっている。この観察会ではコハコベしか観察できなかったが、ウシハコベは柱頭が5本なので、見つけたら比べてほしい。

次にコハコベの花が終わったガクの部分を軽くもんでみるとタネをとることができる。丸くて周りがやや凸凹している。よく似たミドリハコベは自然度の高いところで見られるが、タネの周りが明らかに突起状になっているので区別できる。

コハコベに近縁のオランダミミナグサを観察することができた。オランダミミナグサの花びらは切れ込みが浅いので、コハコベの花と似ている点違う点を観察することができた。

○ナズナの観察

ナズナはアブラナ科の植物で、花びらが4枚十字についている。正確にはX状についている。雄しべは6本。果実は三味線のばちに似た形で、これが俗称ぺんぺん草の名前の由来。

ナズナのなかまでミチタネツケバナを観察した。花は小さいが形はよく似ている。ただし、雄しべは2本退化しているのので4本に見える。センターの敷地でタネツケバナはなかなか観察できないので、あらかじめ田んぼの畔で採集してきたもので両種を比べてみた。ミチタネツケバナはヨーロッパ原産の外来種で、やや乾いた道端に多い。在来のタネツケバナは湿ったところに多い。両種の区別は、茎に毛が少なく、つるつるに見えるのがミチタネツケバナ、茎に毛が多いのがタネツケバナ、ルーペを使って観察するとよくわかる。

○ヤハズエンドウ（カラスノエンドウ）の観察

センターでは、カラスノエンドウの花はまだ咲いておらず、周辺で採集したもので観察した。マメ科特有のチョウの形をした花（蝶形花）を観察した。やがて、豆ができると、黒く熟した色が目立つ。これがカラスノエンドウの名前の由来といわれる。その季節には豆がはじける音を聞くことができる。

○コブシの観察

樹木の観察としては、ハンノキの花や果実を観察する予定だったか、雄花がすっかり落ちてしまった。コブシはちょうど咲きだしたので観察できた。

毛だらけのふわふわの冬芽から、白いきれいな花が顔を出している。花のつけ根には小さな芽が2つついていて、これがやがて枝に成長する。コブシの花びらは6枚、小さなガクが3枚あることを確認した。

○ツバキとサザンカの観察

野生のツバキはヤブツバキという。花びらは5枚、たくさんの雄しべは筒状に癒合し、花びらともしっかりくっついている。よって、花びらは雄しべとともに1つの花のままポトンと落ちる。

赤い花びらをたくさんもつサザンカは、品種改良してつくられた栽培品種でカンツバキという。サザンカは、ヤブツバキほど花びらや雄しべのくっつき方が強くないので、ばらばらに落ちる。

花びら雄しべが落ちたあと、花の中心に残った雌しべを見ると、子房のところに毛があるのがサザンカ、毛がないのがヤブツバキ、よって、サザンカは果実になっても果皮の表面に毛が残っている。

両種の葉柄を比べると、長くて毛がないのがヤブツバキ、短くて毛があるのがサザンカ。葉っぱ1枚あれば、両種は区別できる。

第11回霞ヶ浦自然観察会



オオイヌノフグリの観察、ルーペの使い方も勉強する



ホトケノザ（中央）とヒメオドリコソウ（右）の観察、よく似たものどうしの共通点や違うところを発見



コハコベの観察、花びらの枚数、雄しべ、雌しべのようす、タネの形を観察、右はミチタネツケバナ



ヤブツバキ（左）とサザンカ（中央）の観察、右はサザンカの花、見分けるコツを発見